

『給食の時間が一番楽しみ！』

現在、給食では市内中学校3年生のリクエストメニューが日々登場しています。中学3年生にとっては、卒業後に『給食』を味わう機会はなかなかありません。あるとしたら、教職員になること、給食センターで働くことくらいでしょうか。というのも、今は『給食』より自由に好きなものが食べられる方がいいと思っても、月日が経過すると、もう一度『給食』が食べたいと思う人がやたらと多いんです。今、実際に食べている人にはなかなかわからない感覚だと思います。

授業やその他の活動等、全員が同じ体験をし、それぞれのことをわかり合っているから安心できる空間になっている、仲間と一緒に同じメニューを食べるといった背景もあるかもしれません。

実際のところ、栄養バランスがしっかりと考えられ、日々工夫されたメニューが提供されているのは有難い限りです。

ちなみに日本で学校給食が提供されたのは、1889年（明治22年）、山形県鶴岡市、大督寺というお寺の中に建てられた私立忠愛小学校で、生活が厳しい家庭の子どもたちに無償で昼食が用意されたことが起源とされているそうです。今から133年も前のことで、メニューは、おにぎり2個、塩鮭、菜っぱの漬物でした。

また、東濃地区にも、現在の『給食』に大きく貢献された方がみえます。1921年（大正10年）、今から101年前、川上村（現 中津川市川上）に住んでいた原徹一（はら てついち）氏が、川上尋常高等小学校（現 川上小学校）で、当時の川上村の予算で約300人の児童全員に『膳立て（⇒みそ汁）』の副食提供による学校給食を日本で初めて実施しました。

このことは、川上地区が前任校の校区の1つであったため、学習会で学びました。

現在の給食、メニューが確立したのも長い歴史があり、試行錯誤を重ねてきたことが想像できます。

今、当たり前になっている『給食』、そして中学3年生に向けた『リクエストメニュー』にも、感謝の想いをもって頂きたいですね。

「給食の時間が一番楽しみ！」という生徒の美味しそうに食べる顔、勢いよく食べる姿は、見ている側も気持ちがいいものです。

どんな『楽しみ』であっても、『楽しみ』を抱いて学校に来ることはいいことです。